

科目名	卒業研究ゼミ1（卒業必修）		
授業形態	演習	学年	1
開講時期	2023年度 後期	単位数	1
担当教員	木谷 耕平		
内容および計画	<p>このゼミでは、問いを設定し、仮説を立て、検証し、考察するという研究の一連の流れを学ぶ。研究の流れに沿ってグループとして研究プロジェクトに取り組むことで、研究の仕方だけでなく、チームワークやプロジェクト運営能力も養う。</p> <p>ゼミの前半では、経済学の基礎や研究方法についての文献を輪読する。各回の担当を決め、その担当者が発表し、それに基づいて全体で議論する。後半では自分たちで研究プロジェクトを立案し、実施する。研究のテーマはゼミ生全員で議論して決定する。分析の枠組みには経済学の考え方をを用いるが、経済成長やインフレなどのいわゆる「経済学らしい」テーマに限るものではない。ゼミ生の関心を尊重し、テーマを決める。</p> <p>ゼミを通して、卒業研究に取り組むための研究の基礎を身に付けるとともに、グループで活動する力を養うことを目指す。</p> <p>キーワード：経済学、グループワーク、プロジェクト</p>		
1	イントロダクション：ゼミの進め方について この回では、各担当者の役割や輪読の進め方について説明する。また、発表の仕方についても説明する。		
2	テキストに基づく発表とディスカッション① 教科書第2章について報告してもらい、全員で議論する。この回では、特に「知っていること」と「知らないこと」について考察する。		
3	テキストに基づく発表とディスカッション② 教科書第3、4章について報告してもらい、全員で議論する。この回では、問いの設定の仕方や課題の根本原因の捉え方について学ぶ。		
4	テキストに基づく発表とディスカッション③ 教科書第5章について報告してもらい、全員で議論する。この回では、前回に引き続き、問いをどう設定するのかについて学ぶ。		
5	テキストに基づく発表とディスカッション④ 教科書第6、7章について報告してもらい、全員で議論する。この回では、インセンティブがいかに人々の行動に影響を与えるのか、そしてそれがどれほど強い影響力なのか、について考察する。		
6	テキストに基づく発表とディスカッション⑤ 教科書第8章について報告してもらい、全員で議論する。この回では、コミュニケーションや簡単な「仕掛け」によって、人々に行動を促す方法について学ぶ。		
7	テキストに基づく発表とディスカッション⑥ 教科書第9章について報告してもらい、全員で議論する。この回では、失敗とフィードバックの重要性について考察する。		
8	研究プロジェクト①：研究テーマの決定 この回では、研究の進め方について学ぶ。研究のテーマや問い、仮説をどのように設定するのかを説明する。その上で、いくつかのグループに分かれて話し合いを行い、グループとしての研究テーマを設定する。		
9	研究プロジェクト②：先行研究調査の方法 研究では、そのテーマについてすでに何が明らかになり、何が明らかになっていないのかを示すことが重要である。そのためには、先行研究の調査が欠かせない。この回では、先行研究をどのように探すのかを学ぶ。		
10	研究プロジェクト③：先行研究の整理・確認 先行研究を見つけても、ただ読むだけでは理解が進まない。この回では、先行研究をどのように読むべきなのか、また読んだ内容をどのように整理すれば良いのかを学ぶ。		
11	研究プロジェクト④：プロジェクト内容の決定 先行研究を踏まえて、各グループで研究の問いや仮説、方法について改めて話し合う。その上で、プロジェクトの具体的な内容を決定する。		
12	研究プロジェクト⑤：調査・研究 各チームで立案した研究プロジェクトに沿って、実験や調査を行う。		
13	研究プロジェクト⑥：研究結果の分析・考察 調査や実験の結果を整理し、分析を行う。分析した後は、ただ結果をまとめるだけでなく、その結果が		

	どのような意味を持つのかチームで議論し、考察する。
14	研究プロジェクト⑦：研究結果のまとめ 次回の研究成果の報告に備え、プロジェクトの成果を要旨およびプレゼンテーション資料としてまとめる。
15	研究プロジェクト⑧：研究成果の報告 各グループの研究成果をプレゼンテーションする。そのプレゼンテーションに対し、聞き手側のグループは意見やコメントを述べる。その後、プロジェクトの反省点や改善点についてゼミ全体で議論する。

教科書				
タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
0 ベース思考	スティーヴン・レヴィット、スティーヴン・ダブナー	ダイヤモンド社	9784478029060	2015

特定の教科書は指定しない。

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・石黒圭 『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』 日本実業出版社、2012年 ・桑田てるみ 『学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版』 実教出版社、2015年 ・筒井 義郎、佐々木 俊一郎、山根 承子、グレッグ・マルデワ 『行動経済学入門』 東洋経済新報社、2017年 ・スティーヴン・D・レヴィット、スティーヴン・J・ダブナー 『ヤバい経済学（増補改訂版）』 東洋経済新報社、2007年 ・マシュー・サイド 『失敗の科学』 ディスカヴァー・トゥエンティワン、2016年
-----	--

成績評価	
評価方法	割合(%)
ゼミ内での発表・議論への参加	40
研究プロジェクトへの貢献度	40
課題（長期休暇中の課題を含む）	20

学習到達目標	以下の3点を到達目標とする。 ①研究の一連の流れを習得し、研究プロジェクトを立案できる。 ②経済学を使って現実の課題を分析し、その解決方法を示すことができる。 ③チームで協調し、プロジェクトを円滑に実施することができる。
先修条件	マクロ経済学基礎を履修中であること。
実務経験	
その他	特別な事情のない欠席や遅刻は厳禁。ゼミの内容は、ゼミ生の人数や興味関心によって変更する可能性がある。